



CHIBA
UNIVERSITY

千葉大学

Future Earth Kick-off ワークショップ

開催趣旨説明

2017年3月2日

Future Earth

1. 世界の学界を巻き込んだ新たな**国際連携の動き**
2. 気候変動への対応など、現在、我々が抱える
困難な**社会的課題を解決する動き**
3. **科学技術(学界)を社会と繋げる動き**

Future Earth -2

4. これまで、科学技術によって**多くの便益を得てきた**
5. 一方で、解決されていない**課題が多く残されている**
例えば、気候変動、生物多様性の減少、・・・
6. **社会の課題を解決するには科学技術(学界)は何をしなければならぬのか**

**科学技術(学界)は社会と繋がり、
社会の関係者と協働することが必要**

国際本部事務局

- @ 分散事務局体制；日本、アメリカ、カナダ、イギリス、フランス
- @ 国際本部事務局日本ハブ；東京大学

地域センター

- @ アジア、中近東・北アフリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ
- @ アジア地域センターは日本の総合地球環境学研究所(RIHN)

日本コンソーシアム

- @ 日本学術会議

Future Earth プログラムへの千葉大学の対応

- A. 日本コンソーシアム（日本学術会議）に参加**
代表；小林達明 園芸学研究所長
幹事；環境リモートセンシング研究センター

- B. タスクフォースを設置**
2016年6月に第1回会合を開催
千葉大学としてどう進めるか？

- C. キックオフ ワークショップ を開催**
2017年3月2日
世界、日本の動きと千葉大学案の擦り合わせ

本日のプログラム； 第1部

基調講演

春日 文子先生 「Future Earth と日本の役割」

フューチャー・アース国際本部事務局 日本ハブ事務局長

世界の動向

谷口 真人先生 「Future Earth: 日本が取り組むべき

国際的優先テーマの抽出」

総合地球環境学研究所 副所長・教授

日本の動向

蟹江 憲史先生 「SDGsとFuture Earth の超学際研究」

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授

SDGsとの関係

本日のプログラム； 第2部

千葉大学はどうする？

講演； 小林達明教授

「お母さんとお父さんがわかる環境学—地域環境情報プラットフォームを基礎にした健康ランドスケープづくり」

パネル討論

春日 文子、谷口 真人、蟹江 憲史の各先生

近藤昭彦教授（環境リモートセンシング研究センター）

宮崎美砂子教授（看護学研究科）

鈴木規道特任助教（予防医学研究センター）

倉阪秀史教授（人文社会科学研究科）

千葉大学におけるFuture Earth

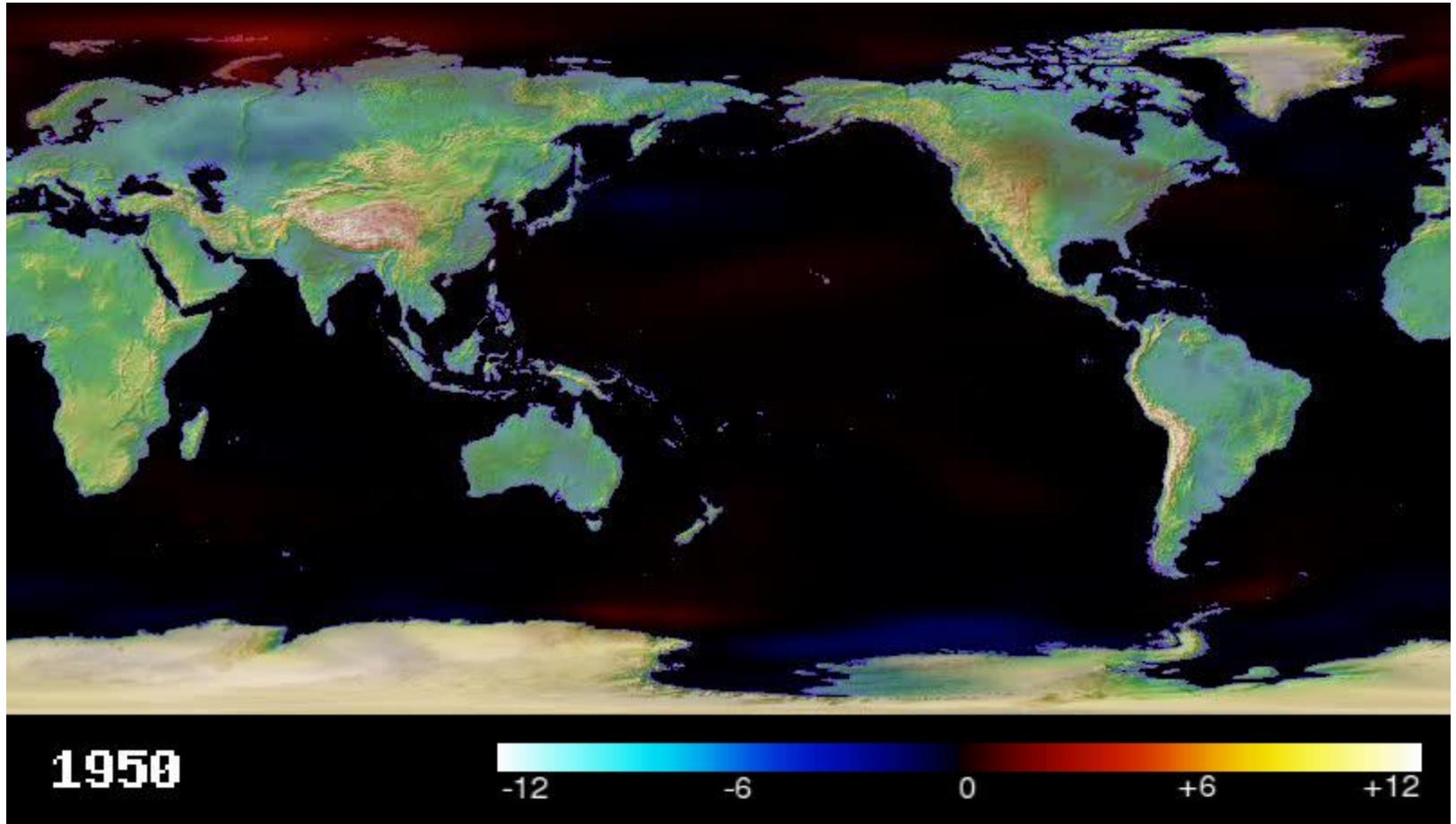
食と健康、そして環境

社会の関係者(ステークホルダー)として

- ☆ 保健師さん
- ☆ 栄養士さん
- ☆ 幼稚園等の先生方
- ☆ お母さん、お父さん

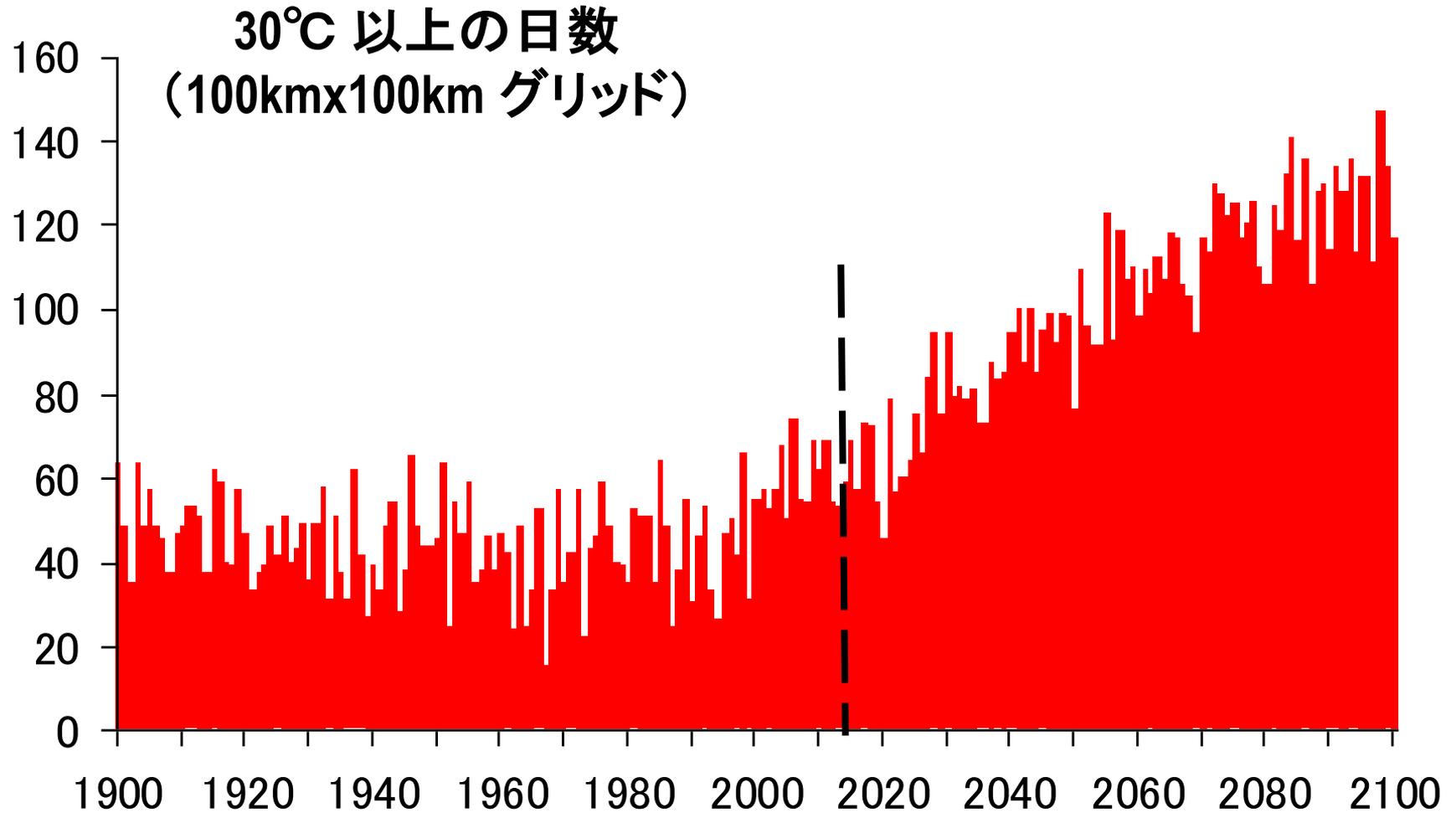
に参加頂く

気候変動将来予測 (NIES-CCSR-FRCGCモデル)



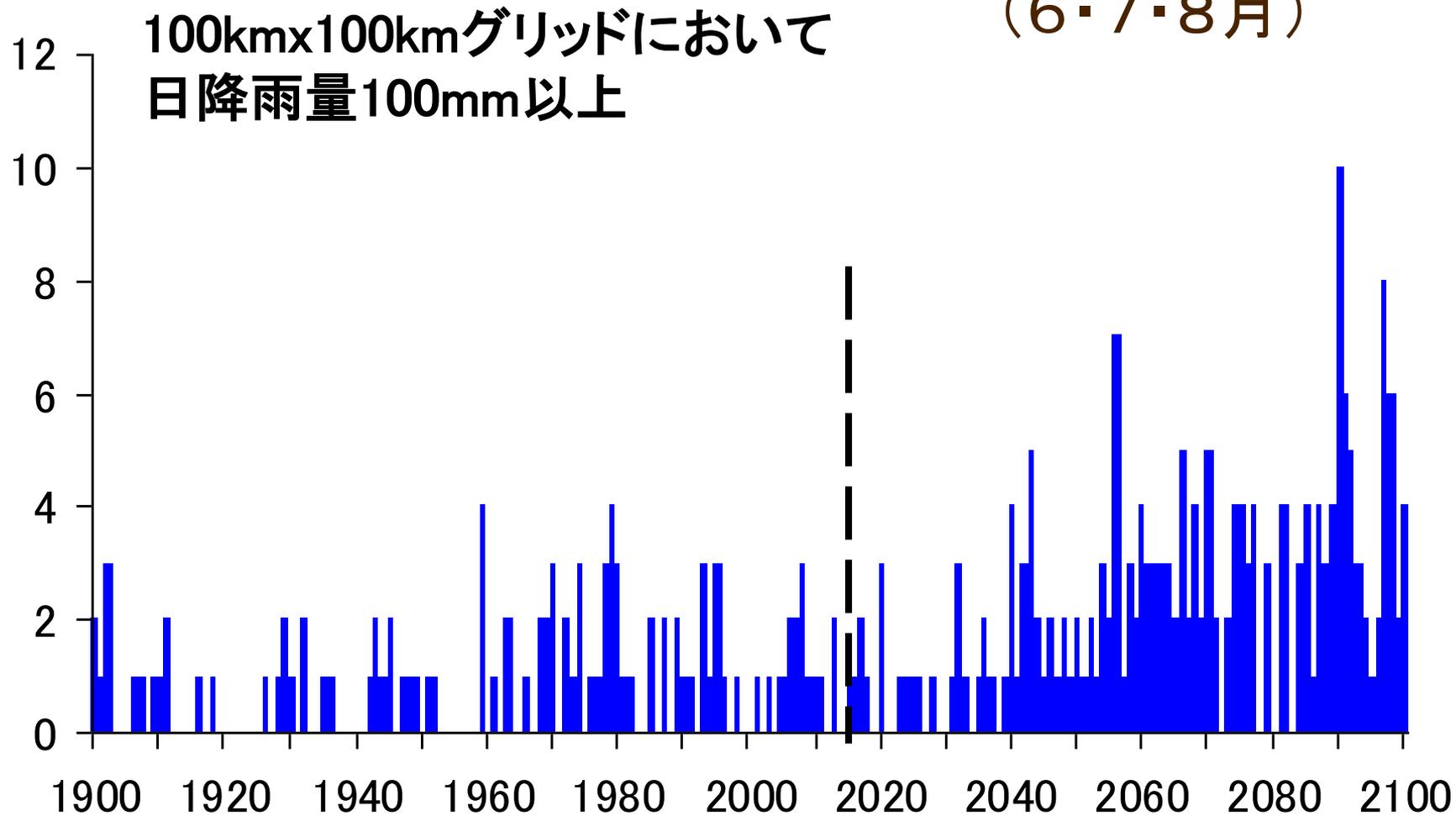
スーパーコンピュータを用いた将来の気候変化予測の結果
文部科学省「人・自然・地球共生プロジェクト」

日本における真夏日日数の予測

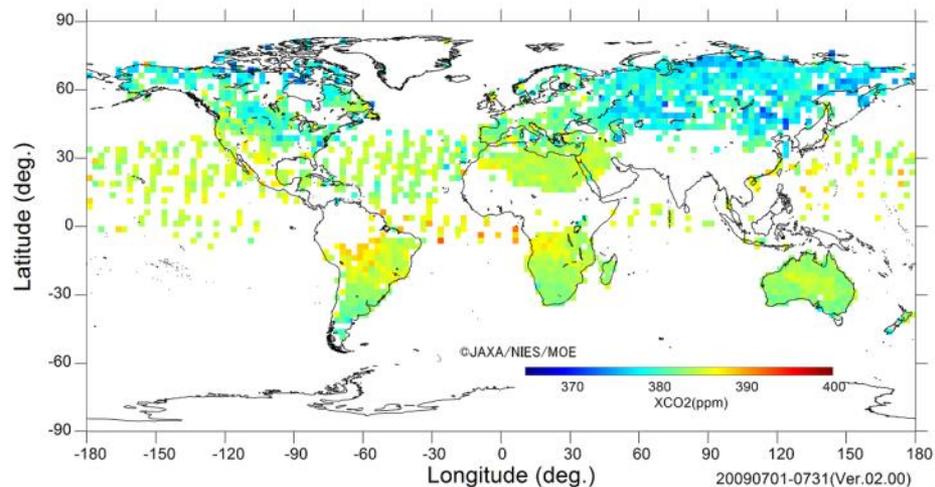


日本の夏季の豪雨日数の予測

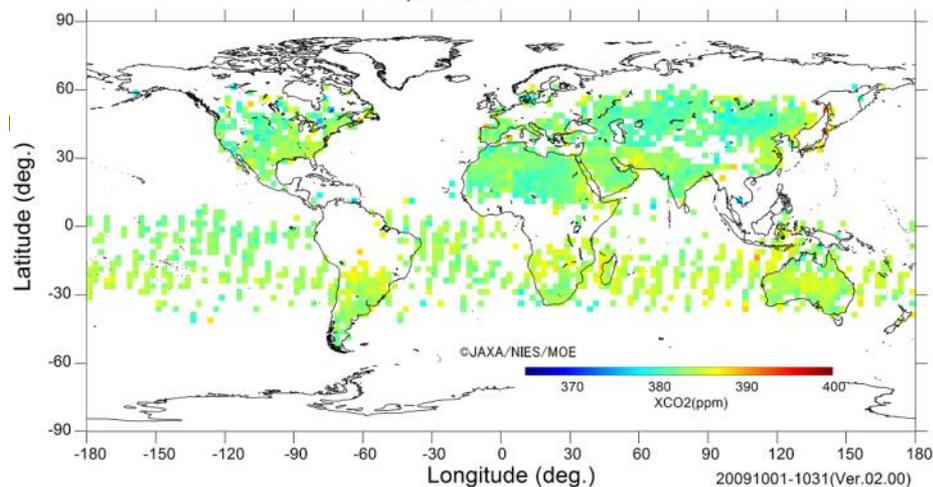
(6・7・8月)



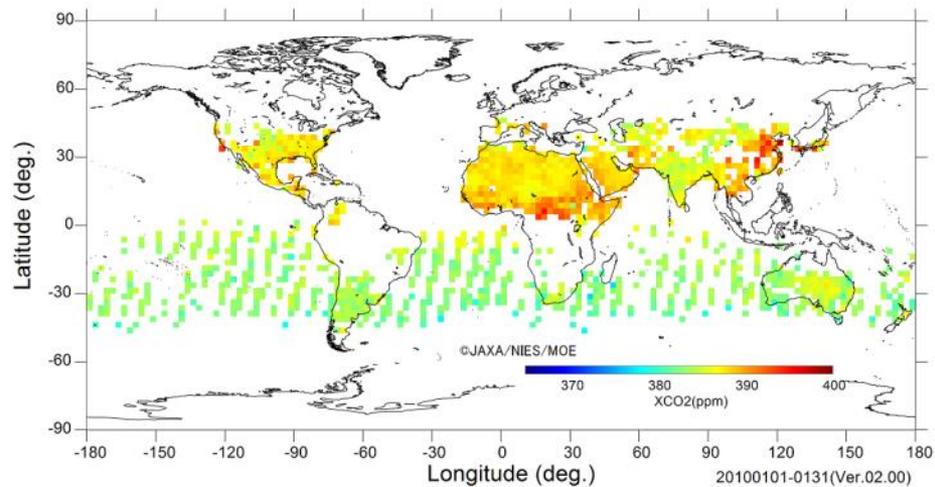
FTS SWIR L2 XCO₂ V02.xx



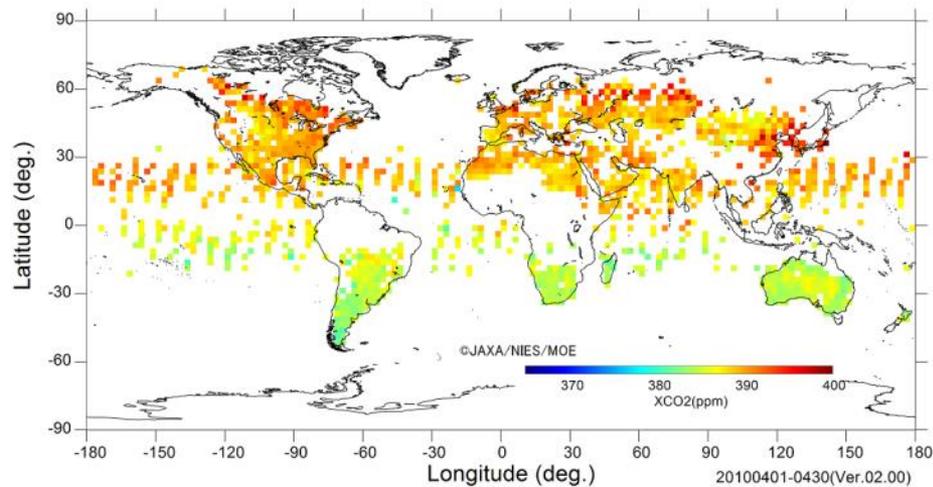
2009/07



2009/10



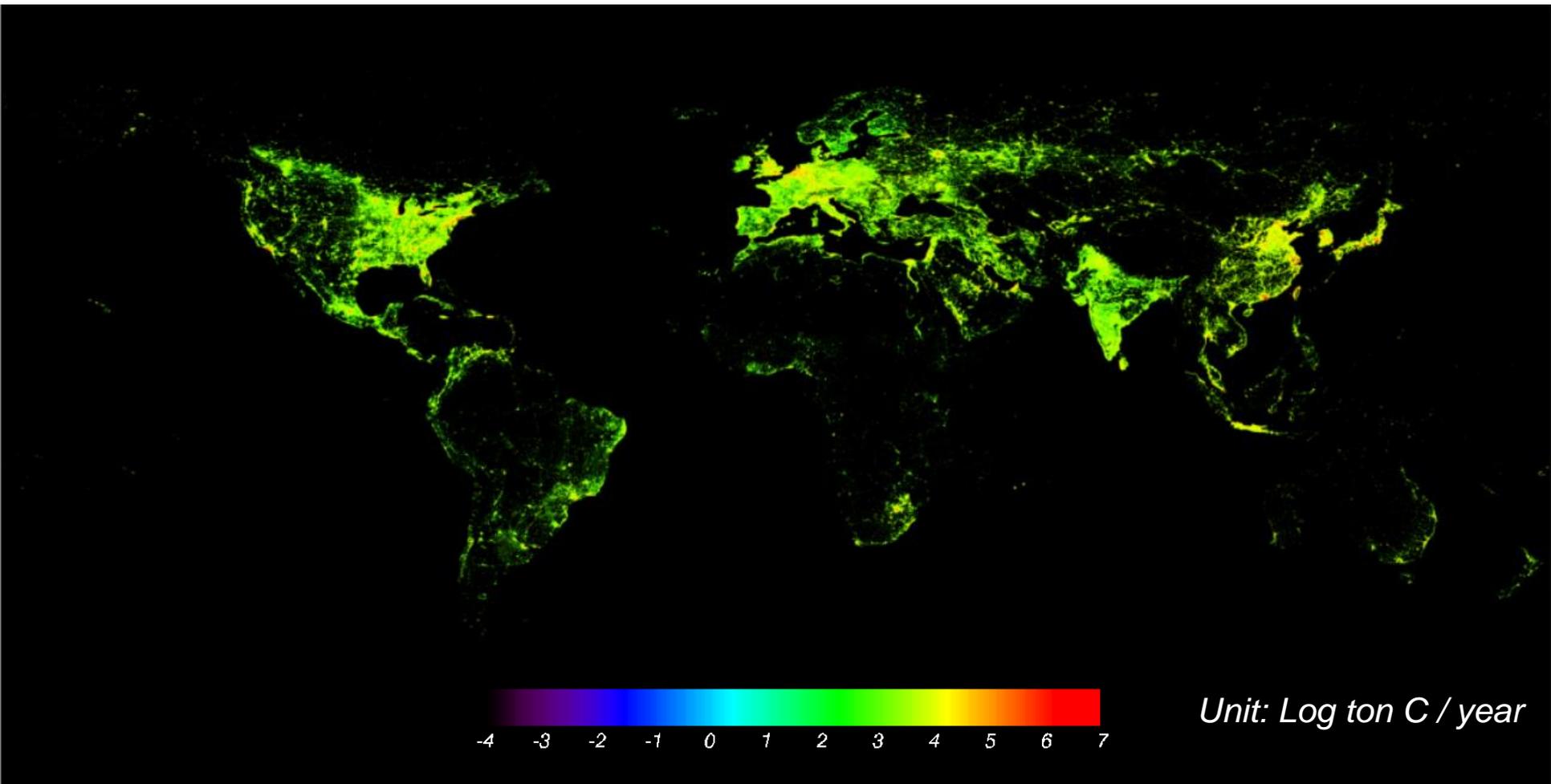
2010/01



2010/04

二酸化炭素カラム平均濃度の2.5度メッシュ平均値マップ(Ver.02.00)

CO₂ 排出量分布図 (2006)



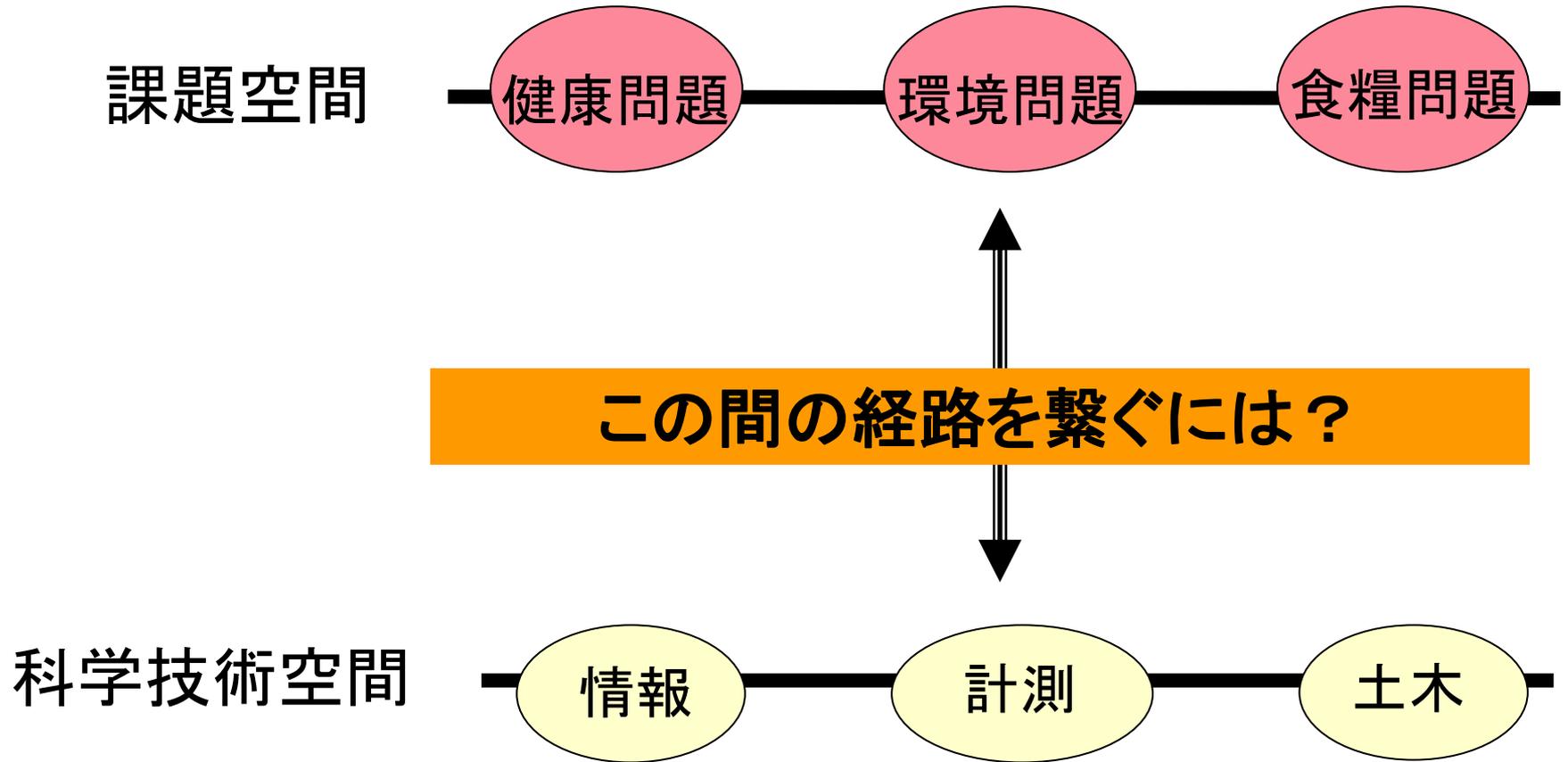
Oda et al. in prep for the Proc. of APAN 30

国別の排出量は統計値をもとに算出。パワープラントは各グリッドの排出値として計上。他の排出量は、DMSP(夜間の光量を計測する衛星センサ)からのデータを基に各グリッド分布データに変換。

千葉大学におけるFuture Earth

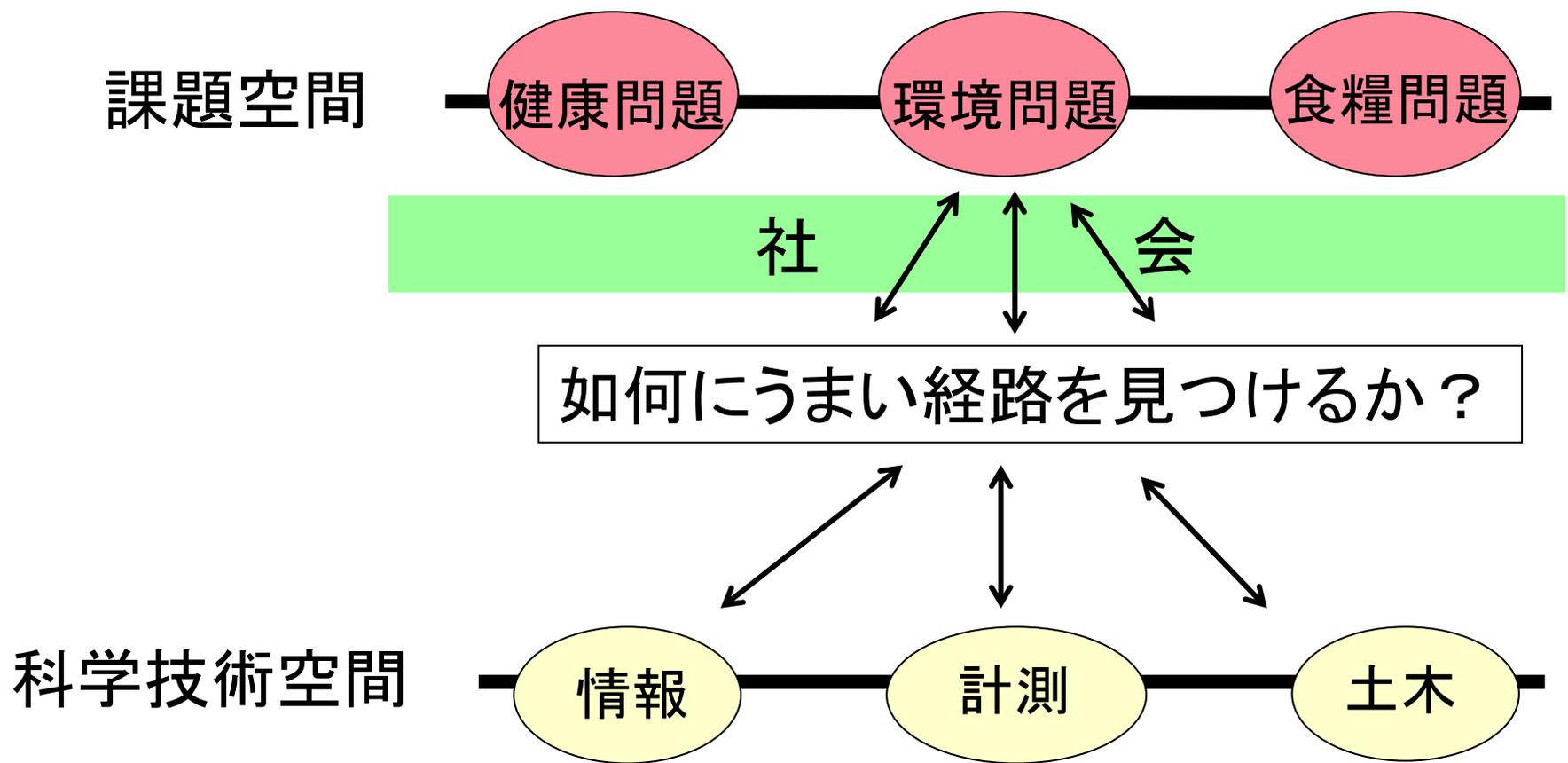
食と健康、そして環境

科学技術 ⇔ 課題解決



これまでは、下からボトムアップ的に経路を見つけてきた

科学技術 ⇔ 課題解決



社会とともにトップダウンとボトムアップを擦り合わせる